



トラブルシューティング Snapdrive for Unix

NetApp
June 20, 2025

目次

トラブルシューティング	1
エラーメッセージについて	1
エラーメッセージの場所	1
エラーメッセージの形式	2
一般的なエラーメッセージです	3
オペレーティングシステムで開いているファイル数の制限	3
LUN およびクローンを削除すると、UNIX では古いデバイスが残ります	3
エラーメッセージの値	3
複数の SAN パスが存在するが、マルチパスが無効になっている場合に、SnapDrive storage create コマンドが失敗します	34
ホストシステムにボリュームをアンマウントせずに SVM でボリュームを削除した場合、SnapDrive storage show コマンドで間違った実際のパスが表示されます	35
ホストおよびストレージシステムで NFSv3 および NFSv4 のバージョンが有効になっていると、snap restore 処理が失敗します	35
回避策	36
スナップ切断処理でクローンボリュームの削除に失敗する	36
iSCSI が実行されていない場合、SnapDrive for UNIX からエラーが報告されます	36
回避策	36
エラーコードメッセージに不一致があります	37
コマンドはブロックされたように表示	38
回避策	38
SnapRestore の実行中にクラスタリングメッセージが表示されます	38
回避策	38
標準終了ステータス値	38
エラーメッセージの終了ステータスの値について	39
終了ステータス値を使用する	39
スクリプトの例	39
終了ステータスの値	41
ボリュームベースの SnapRestore チェックが失敗する	57
Snapshot の作成処理と削除処理が失敗する	57
回避策	58
Snapshot コピーを作成できません	59
Snapshot コピーをリストアできません	60
ホストがストレージシステムと通信できない場合、デーモンを再起動できません	61
(AIX) MPIO cfmode のサポートには制限があります	61
デーモンを開始できません	61
AIX 原因でのゴーストデバイスハンドルの iSCSI コマンドでのリターン時間が長くなる	62
snapdrived start コマンドが失敗しました	62
SnapDrive	

コマンドを使用すると、ファイルシステムのマウントやアンマウント、およびシステムファイルの変更が行われる場合があります	63
ストレージスタックを選択できません	63
snapped stop コマンドまたは snapped start コマンドを実行するとハングします	64
SnapDrive for UNIX コマンドを実行しても、アクセスエラーを確認できませんでした	64
NFS 環境で FlexVol ボリュームのマウントが失敗する	65
SnapDrive for UNIX は、ドル記号を正しく解釈しません	65
例	66
回避策	66
マッピングされた一部のデバイスの検出中に SnapDrive for UNIX storage create コマンドが失敗する	66
回避策	66
カスタマイズした LD_LIBRARY_PATH で SnapDrive for UNIX コマンドが失敗する	67
回避策	67
複数サブネット構成で SnapDrive 処理が失敗する	67
回避策	67
環境変数がコマンドシェルで設定されていると、SnapDrive for UNIX コマンドが失敗します	67
回避策	67
SnapDrive for UNIX のパッチを AIX にデフォルトでインストールすることはできません	68
回避策	68
SnapDrive for UNIX では、UNIX の古いデバイスは自動的に削除されません	68
回避策	68

トラブルシューティング

SnapDrive for UNIX のトラブルシューティングツールを使用すると、問題の解決に加えて情報も確認できます。

このリリース時点で、SnapDrive for UNIX にはいくつかの既知の問題と制限事項があります。一部の問題は UNIX ホストプラットフォームのすべての SnapDrive に影響しますが、それ以外の問題は特定のホストプラットフォームにのみ影響します。既知の問題およびトラブルシューティングのヒントについては、SnapDrive for UNIX のリリースノートを参照してください。 _

エラーメッセージについて

SnapDrive for UNIX では、さまざまな場所や形式で表示されるエラーメッセージに関する情報を提供しています。

エラーメッセージの場所

SnapDrive for UNIX では、コマンド出力および各種ログファイルとしてのエラーメッセージに関する情報が提供されます。

SnapDrive for UNIX は、次の場所にエラー・メッセージに関する情報を提供します。

- コマンドの出力に表示されます

SnapDrive for UNIX コマンドの標準エラー出力へのすべてのメッセージを表示します。

- システムログ

SnapDrive for UNIX では 'syslog(3) メカニズムを使用して 'Fatal エラーと Admin エラーの重大度レベルを持つすべてのエラーがシステム・ログに記録されます

- 監査ログファイル

監査ログには、SnapDrive for UNIX コマンドごとに次の情報が記録されます。

- 発行者
- 発行日
- 終了ステータス

これは、システムで実際に何が起こったかを判断するのに非常に役立ちます。

- トレースログファイル

トレースログには、発生したエラーに関する詳細情報が記録されます。ネットアップテクニカルサポートは、問題の診断時にこのログを使用します。

エラーメッセージの形式

エラーメッセージの形式は、エラーの原因を特定するのに役立ちます。

SnapDrive for UNIX は、標準のエラーコード情報を返します。これにより、初期エラー状態の原因となった項目のより具体的な概要が提供されます。SnapDrive for UNIX のエラー・メッセージは、次の形式に準拠しています。

「コードメッセージ ID エラータイプ:メッセージテキスト」を無効にします

- *return code*—エラー状態の基本的な原因を示す終了ステータス値にリンクされた UNIX エラーメッセージ ID の SnapDrive。
- *message-ID*—エラーを発生させた特定のコードを特定するためにネットアップテクニカルサポートが使用する一意の識別子。ネットアップテクニカルサポートに問い合わせる必要がある場合は、エラーメッセージに付随するメッセージ ID を記録しておくことを推奨します。
- *error type*—SnapDrive for UNIX が検出したエラーの種類を指定します戻り値は次のとおりです。
 - *Warning*—SnapDrive for UNIX はコマンドを実行しましたが、注意が必要な状態についての警告を発行しました
 - *command*—SnapDrive for UNIX はコマンドラインのエラーのためにコマンドを実行できませんでした。コマンドラインの形式と変数が正しいことを確認してください。
 - *Admin*—SnapDrive for UNIX はシステム構成の非互換性のためにコマンドを実行できませんでしたシステム管理者に問い合わせ、設定パラメータを確認してください。
 - *Fatal*—SnapDrive for UNIX は予期しない状態のためにコマンドを実行できませんでした致命的なエラーはまれです。致命的なエラーが発生し、問題の解決に問題が生じた場合は、ネットアップのテクニカルサポートにお問い合わせください。
- *message text*—エラーを説明する情報。このテキストには、エラーの詳細を示すために別のコンポーネントからの情報が含まれている場合があります。たとえば、ディスクグループなどのコマンドライン引数がない場合、何がみつからないかを示すエラーメッセージが表示されます。または、SnapDrive for UNIX がストレージ・システムの制御に使用する Manage ONTAP API では、エラーの説明に役立つ追加テキストが提供されることがあります。この場合、SnapDrive for UNIX の基本的なエラーメッセージに従います。

サンプルのエラーメッセージです

これは、SnapDrive for UNIX のエラーメッセージです。

次のメッセージは、コマンドプロンプトで問題が発生したことを示しています。メッセージ ID は 0001-377 です。

```
Return Code: 43
```

```
0001-377 Command error: Disk group name dg2 is already in use or  
conflicts with another entity.
```

一般的なエラーメッセージです

SnapDrive for UNIX には、一般的なエラーメッセージがいくつかあります。一般的なエラーメッセージの一覧を表示します。

オペレーティングシステムで開いているファイル数の制限

SnapDrive for UNIX は、同時に開かれたファイル数をチェックします。制限を超えた場合、SnapDrive for UNIX はエラーをスローします。

SnapDrive for UNIX は ' プロセスによって開かれたファイル数に関するオペレーティング・システムの制限をチェックします



1つのプロセスで同時に開くことができるファイルハンドル数のデフォルトの上限は、オペレーティングシステムによって異なります。オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、制限を確認してください。

1回の処理で開いている LUN の数が、1つのプロセスで同時に開かれたファイルハンドル数のオペレーティングシステムの制限を超えると、SnapDrive for UNIX は次のエラーメッセージで終了します。

0001-001 Admin error: デバイス・パスとデバイスを開くことができません

LUN およびクローンを削除すると、UNIX では古いデバイスが残ります

LUN とクローンを削除すると、UNIX で古いデバイスが残る可能性があります。また、これらの古いデバイスを削除しても、SnapDrive for UNIX では実行されないことがあります。

手動で、または SnapDrive for UNIX を使用して、Snapshot コピーから LUN および LUN のクローン用のデバイスを作成すると、デバイスエントリが UNIX で自動的に作成されます。SnapDrive for UNIX を使用して LUN および LUN のクローンのデバイスを Snapshot コピーから削除すると、UNIX で古いデバイスが使用される可能性があります。

古いデバイスの削除はエンドユーザの責任であり、UNIX 管理者が実行する必要があります。

エラーメッセージの値

SnapDrive for UNIX を使用しているときに表示される一般的なエラーメッセージとその対処方法を理解しておく役立ちます。

次の表に、SnapDrive for UNIX の使用時に発生する可能性がある代表的なエラーに関する詳細情報を示します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0000-001」	該当なし	管理	「ストレージシステム <storage-system-name> に対して設定されました。SnapDrive config delete mgmpath コマンドを使用してこれを削除し、再試行してください	ストレージシステムを削除する前に、SnapDrive config delete -mgmpath コマンドを使用して、ストレージシステムに設定されている管理パスを削除します。
「0001」 ～「242」	該当なし	管理	HTTPS を使用してストレージ・システムに接続できない： 10.72.197.213/10.72.197.213 が有効なストレージシステムの名前 / アドレスであることを確認します。設定するストレージシステムが Data ONTAP 7-Mode で実行されている場合は、信頼されたホスト（options trusted.hosts）にホストを追加し、ストレージシステム 10.72.197.213 で SSL を有効にするか、http を使用して通信を開始し、SnapDrive デモンを再起動するように snapdrive.conf を変更します。設定するストレージシステムが clustered Data ONTAP で実行されている場合は、SVM 名が SVM の管理 LIF の IP アドレスにマッピングされていることを確認してください	次の条件を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続しているストレージシステムが有効なストレージシステムであることを確認してください。 • 設定しようとしているストレージシステムが Data ONTAP 7-Mode で実行されている場合は、信頼できるホストに同じ SSL を追加し、ストレージシステムで SSL を有効にするか、「snapdrive.conf」ファイルを変更して通信に HTTP を使用するようにしてから、SnapDrive デモンを再起動します。 • 設定するストレージシステムが clustered Data ONTAP で実行されている場合は、SVM 名が SVM の管理論理インターフェイス（LIF）の IP アドレスにマッピングされていることを確認してください。
「0003-004」	該当なし	管理	'ゲスト OS からストレージシステム <storage-system-name> 上の LUN <lun-name> のデポートに失敗しました。理由：CoreOS からマッピングデバイス情報が入力されていません	これは、ゲスト OS で SnapDrive の snap disconnect 操作を実行した場合に発生します。ESX サーバに RDM LUN マッピングがあるか、または ESX サーバに古い RDM エントリがあるかを確認します。ESX サーバおよびゲストオペレーティングシステムで RDM マッピングを手動で削除します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-019」	3.	コマンドを実行します	無効なコマンドライン—重複したファイル指定 : <dg1/vol2 と dg1/vol2	<p>これは、実行するコマンドに同じホストボリューム上に複数のホストエンティティがある場合に発生します。</p> <p>たとえば、ホストボリュームとファイルシステムは同じホストボリュームに明示的に指定されています。</p> <p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホストエンティティの重複するインスタンスをすべて削除します。 2. コマンドを再度実行します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「23」	11.	管理	'DG1 ディスク・グループ内のすべての LUN を検出できませんデバイスが応答していません : DG1 ストレージ・システム上の LUN ステータスを確認し 'LUN を必要に応じてオンラインにするか' 信頼できるホスト (options trusted.hosts) にホストを追加してストレージ・システム上で SSL を有効にするか 'snapdrive.conf を変更して (http/https) ストレージ・システム通信に使用し ' SnapDrive デーモンを再起動してください	<p>これは、デバイスの SCSI 照会に失敗した場合に発生します。デバイスの SCSI 照会に複数の理由で失敗する可能性があります。</p> <p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. device-retries 設定変数を大きい値に設定します。 たとえば、10 に設定し (デフォルト値は 3) 、コマンドを再度実行します。 2. デバイスに関する情報を取得するには、-all オプションを指定して SnapDrive storage show コマンドを使用します。 3. FC サービスまたは iSCSI サービスがストレージシステムで実行されているかどうかを確認します。 サポートされていない場合は、ストレージ管理者に問い合わせ、ストレージシステムをオンラインにします。 4. FC サービスまたは iSCSI サービスがホスト上で稼働しているかどうかを確認します。 <p>上記の解決方法で問題が解決しない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。</p>
「0001-859」	該当なし	管理	' いずれのホストのインタフェースにも ' ストレージ・システム上のディレクトリ < ディレクトリ名 > にアクセスするための NFS 権限がありません	'napdrive.conf' ファイルで 'check-export-permission-nfs-clone' 構成変数が 'off' に設定されていることを確認します
「0002 - 253」		管理	Flex クローンの作成に失敗しました	ストレージシステム側のエラーです。トラブルシューティングを行うには、sd-trace.log とストレージシステムのログを収集してください。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「 0002 」 ～ 「 264 」		管理	FlexClone はファイラー <filer name> ではサポートされていません	FlexClone は、現在の Data ONTAP バージョンのストレージシステムではサポートされていません。ストレージシステムの Data ONTAP バージョンを 7.0 以降にアップグレードしてから、もう一度コマンドを実行してください。
000-265`		管理	ファイラー <filename> で flex_clone ライセンスを確認できません	ストレージシステム側のエラーです。sd-trace.log とストレージシステムログを収集してトラブルシューティングを行います。
「 0002 」 ～ 「 266 」	該当なし	管理	「 FlexClone はファイラー <filename> でライセンスされていません	ストレージシステムに FlexClone のライセンスがありません。ストレージシステムに FlexClone ライセンスを追加してから、コマンドを再試行します。
「 0002 - 267 」	該当なし	管理	FlexClone はルート・ボリューム <volume-name>` ではサポートされていません	ルートボリュームに FlexClone を作成することはできません。
「 0002 」 ～ 「 270 」	該当なし	管理	アグリゲートの空き領域 <aggregate-name> は、ディスクグループ / FlexClone メタデータに必要な <size> MB (メガバイト) より小さい値です	<ol style="list-style-type: none"> 1. AIX のネイティブ LVM で必要な最小スペースは約 12.58 MB ですが、それ以外の場合は約 8.39 MB が必要です。 2. FlexClone を使用して raw LUN に接続する場合、アグリゲートに 2MB の空きスペースが必要です。 3. 手順 1 および 2 に従ってアグリゲートのスペースを解放してから、コマンドを再試行します。
「 0002 」 ～ 「 332 」	該当なし	管理	'D.snapshot.Restore access denied on qtree storage_array1 : /vol/vol1/qtree1 for user lnx197-142\john	必要な機能をユーザに付与するには、Operations Manager 管理者にお問い合わせください。
「 0002 ～ 364 」	該当なし	管理	'dfm に連絡できません : lnx197-146 ユーザー名またはパスワードを変更してください	SD-admin ユーザーのユーザー名とパスワードを確認して修正します。
「 0002 」 ～ 「 268 」	該当なし	管理	'< ボリューム名 > はフレキシブル・ボリュームではありません	トラディショナルボリュームでは FlexClone を作成できません。

エラーコード	リターンコード	を入力し ます	メッセージ	解決策
「 0001-552 」	該当なし	コマンドを 実行します	'有効なボリュームク ローンまたは LUN ク ローンではありません	トラディショナルボリュームの場合、クローンスプリットは作成できません。
「 0001-553 」	該当なし	コマンドを 実行します	「 <filer-Name> 」に 十分なストレージ・ス ペースがないため、「 FS - 名前」を分割でき ません	クローンスプリットはスプリット処 理を続行し、ストレージシステムで 使用できるストレージスペースが不 足したために突然クローンスプリッ トが停止します。
「 9000-023`	1.	コマンドを 実行します	'Keyword -lun' の引数 がありません	このエラーは '-lun' キーワードを指 定したコマンドに 'lun_name' 引数が ない場合に発生します 対処方法：次のいずれかを実行しま す。 1. コマンドの引数に '-lun' キーワ ードを指定して 'lun_name' を指定 します 2. SnapDrive for UNIX のヘルプ・ メッセージを確認します
「 0001` ～ `028`	1.	コマンドを 実行します	ファイルシステム /mnt/qa/dg4/vol1> は、SnapDrive で管 理されないタイプ（ HFS）です。リクエ ストを再送信して、フ ァイルシステム </mnt/qa/dg4/vol1> を 終了してください	このエラーは、サポートされていな いファイルシステムタイプがコマン ドの一部である場合に発生します。 操作：ファイルシステムタイプを除 外または更新してから、コマンドを もう一度使用します。 ソフトウェアの互換性に関する最新 情報については、Interoperability Matrix を参照してください。
「 9000-030`	1.	コマンドを 実行します	-lun は他のキーワード と組み合わせて使用す ることはできません	このエラーは '-lun' キーワードと '-fs' または '-dg' キーワードを組み合わ せた場合に発生しますこれは構文エ ラーであり、コマンドの使用方法が無 効であることを示しています。操作 ：コマンドを再度実行するには、「 -lun」キーワードを指定する必要が あります。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「034」	1.	コマンドを実行します	"mount failed: mount: <device name> は有効なブロックデバイスではありません	<p>このエラーは、クローニングされた LUN が、Snapshot コピー内の同じファイル仕様にすでに接続されている場合に、SnapDrive snap restore コマンドを実行しようとしたときに発生します。</p> <p>コマンドは失敗します。これは、クローニングされた LUN を削除すると、iSCSI デーモンがリストアされた LUN のデバイスエントリを再マッピングするためです。</p> <p>対処方法：次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SnapDrive snap restore コマンドを再度実行します。 2. 元の LUN の Snapshot コピーをリストアする前に、接続されている LUN（Snapshot コピーと同じファイル仕様にマウントされている場合）を削除します。
「0001」 ～「046」 および「0001」 ～「047」	1.	コマンドを実行します	無効なスナップショット名： /vol/vol1/no_filer_prefix> または無効なスナップショット名： no_dlong_filename - ファイラーボリューム名がありません	<p>無効な Snapshot 名で Snapshot 処理が試行されたコマンドで、構文エラーが発生しています。</p> <p>What to do：次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SnapDrive の Snapshot コピーのリストを取得するには、lun snap list -ffiler <filer-volume -name> コマンドを使用します。 2. long_snap_name 引数を指定してコマンドを実行します
「9000-047」	1.	コマンドを実行します	`s 与えられる 1 つ以上の snapname 引数	<p>SnapDrive for UNIX では、Snapshot 処理を実行するために、コマンドラインで複数の Snapshot 名を指定することはできません。What to do：1 つの Snapshot 名だけを指定してもう一度コマンドを実行します。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力し ます	メッセージ	解決策
「 9000-049` 」	1.	コマンドを 実行します	dg と -vg は併用でき ません	このエラーは '-dg' キーワードと '-vg` キーワードを組み合わせると発生し ますこれは構文エラーであり、コマ ンドの使用方法が無効であることを 示しています。 操作：コマンドを実行するには '-dg または --vg キーワードを指定します
「 9000-050` 」	1.	コマンドを 実行します	「 -lvol 」と 「 -hostvol 」 は併用できません	このエラーは、「 -lvol 」 キーワード と 「 -hostvol 」 キーワードを組み合 わせると発生します。これは構文エ ラーであり、コマンドの使用方法が 無効であることを示していま す。What to do ：次の手順を実行し ます。 1. コマンド・ラインで '-lvol' オプシ ョンを '-hostvol' オプションに変 更するか' またはその逆に変更し ます 2. コマンドを実行します。
「 9000-057` 」	1.	コマンドを 実行します	`m ising required- snapname argument`	この構文エラーは、 snap_name 引 数を指定しないと Snapshot 処理が 試行されるコマンドの使用が無効で あることを示します。What to do ： 適切な Snapshot 名を指定してコマ ンドを実行します。
「 0001` ～ `67` 」	6.	コマンドを 実行します	'Snapshothourly.0 のス ナップショットは、 SnapDrive によって作 成されませんでした	Data ONTAP によって 1 時間ごとに 作成された自動 Snapshot コピーで す。
0001 ～ 092` 」	6.	コマンドを 実行します	'snapshot- <NON_EXistent 24965> は、 fileervol exocet: </vol/vol1/vol>' に存在 しません	指定した Snapshot コピーがストレ ージシステム上で見つかりませんで した。What to do ： SnapDrive snap list コマンドを使用して、ストレージ ・システムに存在する Snapshot コ ピーを検索します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-099」	10.	管理	無効な Snapshot 名 : <exocet: /vol/vol2/dbvol: New snapname> がストレ ージシステムボリューム名 <exocet: /vol/vol1/vol>` と一致 しません	無効な Snapshot 名で Snapshot 処 理が試行されるコマンドの使用を示 す構文エラーです。 What to do : 次の手順を実行しま す。 1. SnapDrive の Snapshot コピーの リストを表示するには、 <code>lun snap list -fer_<filer -volume -name> _`</code> コマンドを使用しま す。 2. SnapDrive for UNIX で認定され ている正しい形式の Snapshot 名 を使用してコマンドを実行しま す。修飾された形式は 'long_snap_name` と 'short_snap_name` です
「0001」 ～ 「122」	6.	管理	'Failed to get snapshot list on filer <exocet> : 指定されたボリューム は存在しません	このエラーは、指定されたストレ ージシステム (ファイラー) ボリューム が存在しない場合に発生します。 What to do : 次の手順を実行しま す。 1. ストレージ管理者に問い合わせ て、有効なストレージシステム ボリュームのリストを入手して ください。 2. 有効なストレージ・システム・ ボリューム名を指定してコマン ドを実行します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「 0001 」 ～ 「 124 」	111	管理	` Filer <exocet>: LUN クローンで <snap_delete_multi_in use_24374> を削除で きませんでした	LUN クローンが存在するため、指定された Snapshot コピーの「Snapshotdelete」操作が失敗しました。 What to do : 次の手順を実行します。 1. SnapDrive storage show コマンドに「-all」オプションを指定して、Snapshot コピー（元の Snapshot コピーの出力に含まれる）の LUN クローンを検索します。 2. LUN をクローンからスプリットする場合は、ストレージ管理者に問い合わせてください。 3. コマンドを再度実行します。
「 0001 」 ～ 「 155 」	4.	コマンドを実行します	スナップショット <DUP_snapname2398 0> は、 <exocet:/vol/vol1/vol> にすでに存在します。 既存のスナップショットを上書きするには 'f (force) フラグを使用してください	このエラーは、コマンドで使用されている Snapshot コピー名がすでに存在する場合に発生します。 対処方法：次のいずれかを実行します。 1. 別の Snapshot 名でコマンドを再度実行します。 2. 「-f」（force）フラグを指定してコマンドを再度実行し、既存の Snapshot コピーを上書きします。
「 0001-158` 」	84	コマンドを実行します	「 <snapshotexocet:/vol/v o L1 : overwrite- noforce_25 078> が作成されたため、 `iskgroup の設定が変更されました。hostvol /dev/dg3/Vol4 を削除しました。'f'（ force）フラグを使用して警告を無視し、リ ストアを完了してください	ディスクグループには複数の LUN を含めることができ、ディスクグループの構成を変更すると、このエラーが発生します。たとえば、Snapshot コピーを作成する場合、ディスクグループの LUN 数は X となり、コピーの作成後に、ディスクグループの LUN 数は X + Y になります。 何をするか：コマンドは、「-f」（force）フラグを付けて再度使用してください。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「185」	該当なし	コマンドを実行します	「storage show failed : no NetApp devices to show or enable SSL on the filers or retry after changing snapdrive.conf to use http for filercommunication」というエラーメッセージが表示されます	<p>この問題は ' ホスト上の iSCSI デーモンまたは FC サービスが停止した場合 ' または動作不良の場合に ' ホスト上に構成された SnapDrive が存在していても ' lun storage show -all コマンドが失敗する原因で発生することがあります</p> <p>What to do : 正常に機能しない iSCSI サービスまたは FC サービスを解決します。</p> <p>LUN が構成されているストレージシステムが停止しているか、リブートを実行中である。</p> <p>What to do : LUN が起動するまで待ちます。</p> <p>コンフィギュレーション変数「<i>usehttps-to-filer</i>」に設定された値は、サポートされていない設定である可能性があります。</p> <p>What to do : 次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「lun lun lun show all」コマンドを使用して、ホストにマッピングされた LUN があるかどうかを確認します。 2. ホストに LUN がマッピングされている場合は、エラーメッセージに記載されている手順に従います。 <p>コンフィギュレーション変数「<i>usehttps-to-filer</i>」の値を変更します（値が「off」の場合は「on」に、値が「on」の場合は「off」に変更します）。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「226」	3.	コマンドを 実行します	「snap create」を使用するには、すべてのファイル仕様にアクセスできる必要があります。以下のファイル仕様にアクセスできないことを確認してください。ファイルシステム： <code>/mnt/qa/dg1/vol3></code>	このエラーは、指定したホストエンティティが存在しない場合に発生します。操作：SnapDrive storage show コマンドを再び <code>-all</code> オプションとともに使用して、ホスト上に存在するホスト・エンティティを検索します
「0001」 ～「242」	18	管理	'Unable to connect to filer:<filename>'	<p>SnapDrive for UNIX は、セキュアな HTTP プロトコルを使用してストレージシステムへの接続を試みます。このエラーは、ホストがストレージシステムに接続できない場合に発生することがあります。What to do : 次の手順を実行します。</p> <p>1. ネットワークの問題：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. nslookup コマンドを使用して、ホストを介して動作するストレージ・システムの DNS 名前解決を確認します。 b. DNS サーバが存在しない場合は、そのサーバにストレージシステムを追加します。 <p>ストレージシステムへの接続には、ホスト名の代わりに IP アドレスを使用することもできます。</p> <p>1. ストレージシステムの構成：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. SnapDrive for UNIX を使用するには、セキュアな HTTP アクセスのライセンスキーが必要です。 b. ライセンスキーを設定したら、Web ブラウザからストレージシステムにアクセスできるかどうかを確認します。 <p>2. 手順 1、手順 2、またはその両方を実行したあとにコマンドを実行します。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-243」と表示されます	10.	コマンドを実行します	Dg 名が無効です : <SDP_dg1>	このエラーは、ディスクグループがホストに存在しないためにコマンドが失敗した場合に発生します。たとえば "sdu_dg1" はホストに存在しません What to do : 次の手順を実行します。 1. すべてのディスク・グループ名を取得するには、SnapDrive storage show -all コマンドを使用します。 2. 正しいディスクグループ名を指定してコマンドを再度実行します。
「0001」～「246」	10.	コマンドを実行します	無効なホストボリューム名 : /mnt/qa/DG2/BADFS > 、有効な形式は <vgname/ hostvolname>、つまり <mygroup/v2>> です	対処方法：ホスト・ボリューム名に適切な形式を使用して、もう一度コマンドを実行します。「vgname/hostvolName」
「0001～360」	34	管理	'LUN の作成に失敗しました /vol/badvol1/nanehp13_unnewDg_fve_sdLun > オン・ファイラー <exocet> : このボリュームはありません	このエラーは、指定したパスに存在しないストレージシステムボリュームが含まれている場合に発生します。What to do : ストレージ管理者に問い合わせ、使用可能なストレージシステムボリュームのリストを入手してください。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「372」	58	コマンドを実行します	不正な LUN 名 : `</vol1/SCE_lun2a>- フォーマットが認識されません	このエラーは、コマンドで指定した LUN 名が、SnapDrive for UNIX でサポートされる事前定義された形式に従っていない場合に発生します。SnapDrive for UNIX では、事前定義された「<filer-name : /vol/<volname>/<lun-name>」の形式で LUN 名を指定する必要があります What to do : 次の手順を実行します。 1. SnapDrive ヘルプのコマンドを使用して、SnapDrive for UNIX でサポートされる LUN 名の事前定義された形式を確認します。 2. コマンドを再度実行します。
「0001-373」	6.	コマンドを実行します	必要な 1 つの LUN が 見つかりません : exocet: /vol/vol1/NotARealLun >	このエラーは、指定した LUN がストレージシステムで見つからない場合に発生します。 対処方法：次のいずれかを実行します。 1. ホストに接続 SnapDrive されている LUN SnapDrive を表示するには、lun storage show -dev コマンドまたは lun storage show -all コマンドを使用します。 2. ストレージシステム上の LUN の全リストを表示するには、ストレージ管理者に問い合わせ、ストレージシステムから lun show コマンドの出力を取得してください。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「377」	43	コマンドを実行します	「ディスクグループ名 <名前> は既に使用されているか、別のエンティティと競合しています。	このエラーは、ディスクグループ名がすでに使用されているか、別のエンティティと競合している場合に発生します。対処方法：次のいずれかを実行します。 autorange オプションを指定してコマンドを実行します SnapDrive storage show コマンドに「-all」オプションを指定して、ホストが使用している名前を検索します。ホストが使用していない別の名前を指定してコマンドを実行します。
「0001」 ～「380」	43	コマンドを実行します	ホストボリューム名 <dg3/vol1> はすでに使用されているか、別のエンティティと競合しています	このエラーは、ホストボリューム名がすでに使用されているか別のエンティティと競合している場合に発生します 対処方法：次のいずれかを実行します。 1. -autorange' オプションを指定してコマンドを実行します 2. SnapDrive storage show コマンドに「-all」オプションを指定して、ホストが使用している名前を検索します。ホストが使用していない別の名前を指定してコマンドを実行します。
「0001」 ～「417」	51	コマンドを実行します	次の名前は既に使用されています : <mydg1>。他の名前を指定してください	対処方法：次のいずれかを実行します。 1. コマンドをもう一度 -autorange' オプションを指定して実行します 2. SnapDrive storage show -all コマンドを使用して、ホスト上に存在する名前を検索します。ホストで使用していない別の名前を明示的に指定するには、コマンドをもう一度実行します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-430」	51	コマンドを実行します	dg/vg DG と -lvol/hostvol dg/vol の 両方を指定することは できません	コマンドの使用方法が無効であることを示す構文エラーです。コマンド・ラインには '-dg/vg' キーワードまたは -lvol/hostvol キーワードのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません 操作：コマンドを実行するには '-dg/vg' または --lvol/hostvol' キーワードだけを指定します
「0001」 ～「434」	6.	コマンドを実行します	「Snapshot の追加： /vol/vol1/vol1 : not_E IST がストレージポ リュームの exocet： /vol/vol1/vol1 に存在し ません	このエラーは、指定した Snapshot コピーがストレージシステムで見つからない場合に発生します。 What to do：SnapDrive snap list コマンドを使用して、ストレージ・システムに存在する Snapshot コピーを検索します。
「0001」 ～「435」	3.	コマンドを実行します	すべてのホスト・ポ リュームまたはすべての ファイル・システム をコマンド・ラインで 指定するか 'autoconfigure オプシ ョンを指定する必要が ありますコマンドライ ンで次の名前が見つかり ませんでした。ス ナップショット <snap2_5VG_SINGLE lun_REMOT> で見つ かりました。ホストポ リューム：<dg3/vol2 > ファイルシステム： /mnt/qa/dg3/vol2	指定したディスクグループには複数のホストボリュームまたはファイルシステムがありますが、コマンドでは完全なセットは示されません。 対処方法：次のいずれかを実行します。 1. -autodexpand オプションを指定してコマンドを再発行します 2. SnapDrive snap show コマンドを使用して、ホスト・ボリュームとファイル・システムの全リストを検索しますすべてのホストボリュームまたはファイルシステムを指定してコマンドを実行します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-440」	6.	コマンドを実行します	'S スナップショット snap2 5VG_SINGLELUN remote にディスクグループ 'dbAD' が含まれていません	<p>このエラーは、指定したディスクグループが指定した Snapshot コピーに含まれていない場合に発生します。</p> <p>What to do : 指定したディスクグループに Snapshot コピーがあるかどうかを確認するには、次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SnapDrive snap list コマンドを使用して、ストレージ・システム内の Snapshot コピーを検索します。 2. SnapDrive snap show コマンドを使用して、Snapshot コピー内に存在するディスク・グループ、ホスト・ボリューム、ファイル・システム、または LUN を検索します。 3. ディスクグループの Snapshot コピーが存在する場合は、Snapshot 名を指定してコマンドを実行します。
「0001-442」	1.	コマンドを実行します	「1つのスナップ接続ソース <src> に指定された宛先 <dis> と <dis1> よりも大きい値です。別のコマンドを使用して再試行してください	<p>操作 : 個別の SnapDrive snap connect コマンドを実行して '新しいターゲット・ディスク・グループ名 (snap connect コマンドの一部) が '同じ SnapDrive snap connect コマンドの他のディスク・グループ・ユニットの一部であるものと同じではないようにします</p>
「0001」 ～ 「465」	1.	コマンドを実行します	次のファイル指定は存在しないため削除できません : ディスクグループ : <nanehp13_dg1>	<p>指定したディスクグループがホストに存在しないため、指定したディスクグループの削除に失敗しました。What to do : ホスト上のエンティティのリストを表示するには 'all' オプションを指定して SnapDrive storage show コマンドを使用します</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「 0001 」 ～ 「 476 」	該当なし	管理	'Unable to discover the device associated with <long LUN name> マルチパスを使用している場合、マルチパス構成にエラーがある可能性があります。設定を確認してから、もう一度やり直してください	この失敗には多くの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 無効なホスト設定： <p>iSCSI、FC、またはマルチパス解決策が適切にセットアップされていません。</p> ネットワークまたはスイッチの設定が無効です： <p>IP ネットワークに iSCSI トラフィック用の適切な転送ルールまたはフィルタが設定されていないか、FC スイッチに推奨されるゾーニング設定が設定されていません。</p> <p>上記の問題は、アルゴリズムやシーケンシャルな診断では非常に困難です。</p> <p>What to do : NetAppl is recommended that you use SnapDrive for UNIX、 you follow the Host Utilities Setup Guide (for the specific operating system) で推奨されている手順に従って、 LUN を手動で検出することを推奨します。</p> <p>LUN を検出したら、 SnapDrive for UNIX のコマンドを使用します。</p>
「 0001-486 」	12.	管理	LUN が使用中です削除できません注意： Volume Manager で制御されている LUN を '最初にボリューム・マネージャの制御から適切に削除せずに削除することは危険です	SnapDrive for UNIX では、ボリュームグループに含まれている LUN は削除できません。 <p>What to do : 次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマンド SnapDrive storage delete -dG_<dgname>_` を使用して、ディスクグループを削除します。 2. LUN を削除します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「494」	12.	コマンドを実行します	SnapDrive はまだ 1 つのホストボリュームが残っているため、<mydg1> を削除できません。<mydg1> に関連付けられたすべてのファイルシステムとホストボリュームを削除するには、-full -fullflag を使用します	<p>ディスクグループ上のすべてのホストボリュームの削除が明示的に要求されるまで、SnapDrive for UNIX はディスクグループを削除できません。</p> <p>対処方法：次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマンドで「-full」フラグを指定します。 2. 次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> a. ディスク・グループ上のホスト・ボリュームのリストを表示するには、SnapDrive storage show -all コマンドを使用します。 b. SnapDrive for UNIX のコマンドで、これらのそれぞれを明示的に指定します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「541」	65	コマンドを実行します	「ファイラー上に LUN を作成するためのアクセス権限が不十分です。 <exocet>。」というメッセージが表示されます	<p>SnapDrive for UNIX では、擬似アクセス制御メカニズムのために、ルート・ストレージ・システム（Filer）ボリューム上の「dhostname.prbac」または「dgeneric.prbacfile」を使用します。</p> <p>対処方法：次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「d-hostname.prbac」または「dgeneric」を変更します。ストレージ・システムに prbac ファイルを追加して、次の必要な権限を追加します（1つ以上） <ol style="list-style-type: none"> a. なし b. snap create c. スナップ使用（Snap Use） d. すべてスナップ（Snap All） e. storage create delete f. ストレージの使用 g. すべてのストレージ h. すべてのアクセス <ul style="list-style-type: none"> ▪ 注：* ▪ 「d-hostname.prbac」ファイルがない場合は、ストレージシステムで「dgeneric.prbac」ファイルを変更します。 ▪ 「d-hostname.prbac」と「dgeneric.prbac」ファイルの両方がある場合は、ストレージシステムの「dhostname.prbac」ファイルでのみ設定を変更します。 i. 'napdrive.conf' ファイルで 'all-access if-rbacunified' コンフィギュレーション変数が 'on' に設定されていることを確認します

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「559」	該当なし	管理	スナップショットの取得中に I/O が検出されました。アプリケーションを休止してください。SnapDrive Admin を参照してください詳細については、ガイドを参照してください	このエラーは、Snapshot コピーを作成しようとしたときに、並列の入出力操作がファイル仕様で発生し、「 <i>snapcreate -cg-timeout</i> 」の値が <i>urgent</i> に設定されている場合に発生します。対処方法：整合グループのタイムアウト値を増やすには、 <i>snapcreate-cg-timeout</i> を <i>relaxed</i> に設定します。
「0001-570」	6.	コマンドを実行します	「ディスクグループ <dg1> は存在しないため、サイズを変更できません」	このエラーは、ディスクグループがホストに存在しないためにコマンドが失敗した場合に発生します。 What to do : 次の手順を実行します。 1. すべてのディスク・グループ名を取得するには、SnapDrive storage show -all コマンドを使用します。 2. 正しいディスクグループ名を指定してコマンドを実行します。
「0001-574」	1.	コマンドを実行します	「<VmAssistant>lvm」では、ディスクグループ内の LUN のサイズ変更はサポートされていません	このエラーは、このタスクの実行に使用するボリュームマネージャで LUN のサイズ変更がサポートされていない場合に発生します。 SnapDrive for UNIX の場合、LUN がディスクグループに属しているときに、ボリュームマネージャの解決策が LUN のサイズ変更をサポートしている必要があります。 対処方法：使用しているボリュームマネージャが LUN のサイズ変更をサポートしているかどうかを確認します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001-616」	6.	コマンドを実行します	'1 個のスナップショットがファイラーで見つかりません : exocet: /vol/vol1/vol:MySnapName>`	<p>SnapDrive for UNIX では、Snapshot 処理を実行するために、コマンドラインで複数の Snapshot 名を指定することはできません。このエラーを解決するには、Snapshot 名を 1 つ指定してコマンドを再実行します。</p> <p>無効な Snapshot 名で Snapshot 処理が試行されたコマンドで、構文エラーが発生しています。このエラーを解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SnapDrive の Snapshot コピーのリストを表示するには、<code>lun snap list -ffiler <filer-volume -name>`</code> コマンドを使用します。 2. 引数 <code>long_snap_name`</code> を指定してコマンドを実行します。
「0001-640」	1.	コマンドを実行します	ルート・ファイル・システム / は SnapDrive によって管理されていません	このエラーは、ホスト上のルートファイルシステムが SnapDrive for UNIX でサポートされていない場合に発生します。これは SnapDrive for UNIX への無効な要求です。
「0001」 ～ 「684」	45	管理	`m マウントポイント <fs_spec> はマウントテーブルにすでに存在します	<p>対処方法：次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 別のマウントポイントを指定して SnapDrive for UNIX コマンドを実行します。 2. マウントポイントが使用されていないことを確認してから、任意のエディタを使用して手動で次のファイルからエントリを削除します。 <p>aix : /etc/filesystems</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
0001-796 と 0001-767`	3.	コマンドを実行します	0001-796 および 0001-767`	<p>SnapDrive for UNIX では、「-nolvm」オプションを指定した場合と同じコマンドで複数の LUN がサポートされません。</p> <p>対処方法：次のいずれかを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> もう一度コマンドを使用し、 「-nolvm」 オプションを指定した LUN を 1 つだけ指定してください。 --nolvm オプションを指定せずにコマンドを使用します。ホストにサポート対象のボリュームマネージャがある場合は、そのマネージャを使用します。
「 2715 」	該当なし	該当なし	'Volume restore Zephyr not available for the filer <filename> Please proceed with LUN restore' というメッセージが表示されます	古いバージョンの Data ONTAP では、ボリュームリストア ZAPI を使用できません。コマンドを SFCSR で再発行します。
「 2278 」	該当なし	該当なし	'snapname> のあとに作成されたスナップショットにはボリュームクローンがありません ... 失敗しました	クローンをスプリットまたは削除します
「 2280` 」	該当なし	該当なし	LUN がマッピングされましたが 'アクティブではないか' またはスナップショットに失敗しました	ホストエンティティのマッピング解除 / ストレージ切断を行います
「 2282 」	該当なし	該当なし	SnapMirror 関係が存在しません ... 失敗しました	<ol style="list-style-type: none"> 関係を削除するか、をクリックします Operations Manager を使用した SnapDrive for UNIX RBAC が構成されている場合は、Operations Manager 管理者に「D」の Snapshot.DisruptBaseline」機能をユーザに付与するよう依頼します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「2286」と入力します	該当なし	該当なし	'LUNs not owned by <fsname> are application consistent in snapshotted volumes... (<fsname> が所有していない LUN は、スナップショットボリューム内で失敗しました。スナップショット LUN は <fsname> によって所有されていません。これは、アプリケーションに整合性がない可能性があります	チェック結果に示された LUN が使用中でないことを確認してください。そのあとにのみ、「-force」オプションを使用します。
2289`	該当なし	該当なし	'No new LUNs created after snapshot <snapname> ... 失敗しました	チェック結果に示された LUN が使用中でないことを確認してください。そのあとにのみ、「-force」オプションを使用します。
「2290`」	該当なし	該当なし	「一貫性のない新しい LUN チェックを実行できませんでした。スナップショットバージョンは SDU 4.0` より前です	これは '-vbsr と一緒に使用した場合に 'UNIX スナップショット用の SnapDrive 3.0 で発生します新しく作成された LUN がもう使用されないことを手動で確認してから '-force オプションを続行してください
2292`	該当なし	該当なし	'新しいスナップショットは存在しません ... 失敗しました。作成されたスナップショットは失われます	チェック結果に示されたスナップショットが使用されなくなったことを確認します。その場合は、「-force」オプションに進みます。
2297`	該当なし	該当なし	通常のファイルと LUN の両方が存在します ... 失敗しました	チェック結果に示されたファイルと LUN が使用されなくなっていることを確認します。その場合は、「-force」オプションに進みます。
「2302」	該当なし	該当なし	NFS エクスポート・リストに外部ホストがありません ... 失敗しました	ストレージ管理者に連絡してエクスポートリストから外部ホストを削除するか、外部ホストが NFS 経由でボリュームを使用していないことを確認します。
「9000-305`	該当なし	コマンドを実行します	'エンティティ /mnt/my_fs のタイプを検出できませんでしたエンティティのタイプがわかっている場合は '特定のオプション (-lun '-dg '-fs または -lvol) を指定します	エンティティがホストにすでに存在する場合は確認してください。エンティティのタイプがわかっている場合は、file-spec タイプが提供されません。

エラーコード	リターンコード	を入力し ます	メッセージ	解決策
「 9000-303`	該当なし	コマンドを 実行します	「同じ名前の複数のエンティティ - /mnt/my_fs がこのホストに存在します。指定したエンティティに固有のオプション (-lun、-dg、-fs、-lvol) を指定します	ユーザには同じ名前のエンティティが複数あります。この場合、ユーザは file-spec タイプを明示的に指定する必要があります。
「 9000-304`	該当なし	コマンドを 実行します	「 /mnt/my_fs 」は、タイプファイルシステムのキーワードとして検出されますが、このコマンドではサポートされていません	このコマンドでは '自動検出されたファイル・スペシフィケーションに対する操作はサポートされていません作業のヘルプを参照して確認します。
「 9000-301`	該当なし	コマンドを 実行します	「自動防御における内部エラー」	自動検出エンジンエラー。トレースログとデーモンログを指定して、詳細な分析を行います。
該当なし	該当なし	コマンドを 実行します	'napdrive.dc ツールは RHEL 5Ux 環境でデータを圧縮できません	デフォルトでは、圧縮ユーティリティはインストールされません。圧縮ユーティリティ ncompress をインストールする必要がありますたとえば 'ncompress-4.2.4-47.i386.rpm' のようにします 圧縮ユーティリティをインストールするには、次のコマンドを入力します。 rpm -ivh ncompress-4.2.4-47.i386.rpm
該当なし	該当なし	コマンドを 実行します	「無効なファイル仕様」	このエラーは、指定したホストエンティティが存在しないか、アクセスできない場合に発生します。
該当なし	該当なし	コマンドを 実行します	ジョブ ID が無効です	このメッセージは、指定したジョブ ID が無効なジョブであるか、ジョブの結果がすでに照会された場合に、クローンスプリットのステータス、結果、または停止処理について表示されます。有効なジョブ ID または使用可能なジョブ ID を指定して、この処理を再試行する必要があります。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
該当なし	該当なし	コマンドを実行します	「計画はすでに進行中です」	このメッセージは、次の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 指定したボリュームクローンまたは LUN クローンについて、クローンスプリットをすでに実行中です。 クローンスプリットは完了しましたが、ジョブは削除されていません。
該当なし	該当なし	コマンドを実行します	'有効なボリュームではありません - クローンまたは LUN- クローン	指定したファイル仕様または LUN パス名は、有効なボリューム・クローンまたは LUN クローンではありません。
該当なし	該当なし	コマンドを実行します	「ボリュームを分割するスペースがありません」	このエラーメッセージは、必要なストレージスペースを分割できないことが原因で表示されます。ボリュームクローンをスプリットするための十分なスペースをアグリゲート内に確保します。
該当なし	該当なし	該当なし	「filer-data: junction-path」情報は使用できません。LUN はオフラインになっている可能性があります	このエラーは '/etc/fstab ファイルが正しく構成されていないときに発生する可能性がありますこの場合、マウントパスは NFS ですが、SnapDrive for UNIX では LUN とみなされていました。 対処方法：ストレージシステム名とジャンクションパスの間にを追加します。
0003-013`	該当なし	コマンドを実行します	仮想インターフェイス・サーバで接続エラーが発生しました仮想インターフェイスサーバが稼働しているかどうかを確認してください	このエラーは、ESX サーバのライセンスが期限切れになり、VSC サービスが実行されていない場合に発生することがあります。 What to Do : ESX Server ライセンスをインストールし、VSC サービスを再起動します。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0002」 ～「137」	該当なし	コマンドを実行します	'10.231.72.21 の場合は 'fstype と mntOpts を取得できませんスナップショット 10.231.72.21 の場合は /vol/ips_vol: /vol/ips_vol3: T5120-206-66_nfssnap.` から vol/ips_vol3 を取得できません	<p>What to do : 次のいずれかを実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データパス・インターフェイスの IP アドレス、またはホスト名として特定の IP アドレスを「/etc/hosts」ファイルに追加します。 2. DNS でデータパス・インターフェイスまたはホスト名 IP アドレスのエントリを作成します。 3. SVM 管理をサポートするように SVM のデータ LIF を設定する（ firewall-policy = mgmt を使用） <ul style="list-style-type: none"> * net int modify -vserver _Vserver_name lif_name -firewall -policy mgmt * 4. ホストの管理 IP アドレスを SVM のエクスポートルールに追加します。
「13003」	該当なし	コマンドを実行します	「権限不足：ユーザーにはこのリソースへの読み取りアクセス権がありません。	<p>この問題は、 SnapDrive for UNIX 5.2.2 で表示されています。 SnapDrive for UNIX 5.2.2 より前のバージョンでは、 SnapDrive for UNIX で設定した vsadmin ユーザには「vsadmin-volume」ロールが必要です。 UNIX 5.2.2 の SnapDrive では、 vsadmin ユーザには昇格されたアクセスロールが必要ですが、 snapmirror get-iter zapi が失敗します。</p> <p>操作： vsadmin-volume ではなく vsadmin ロールを作成し、 vsadmin ユーザに割り当てます。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「016」	該当なし	コマンドを 実行します	ストレージ・システム 上のロック・ファイル を取得できませんでし た	<p>ボリュームに十分なスペースがない ために Snapshot の作成が失敗す る。または 'ストレージ・システム に「.snapDrive_lock」ファイルが 存在するためです</p> <p>対処方法：次のいずれかを実行しま す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレージ・システム上のファ イル「 /vol/<volname>/<snaps_lock'」 を削除し、snap create 処理を再 試行します。ファイルを削除す るには、ストレージ・システム にログインし、advanced 権限 モードに切り替えて、ストレ ージ・システム・プロンプトで「 rm /vol/<volname>/<volname>/.snap Drive_lock` コマンドを実行しま す。 2. Snapshot を作成する前に、ボリ ュームに十分な空きスペースが あることを確認してください。
「0003-003」 」	該当なし	管理	「ストレージシステム の LUN <コントロー ラ名> をゲスト OS に エクスポートできませ んでした。理由： flow-11019: MapStorage での障害 : interface .` で構成さ れたストレージ・シス テムがありません	<p>このエラーは、ESX サーバでスト レージコントローラが設定されてい ない場合に発生します。</p> <p>操作：ESX サーバにストレージコ ントローラとクレデンシャルを追加 します。</p>
「0001」 ～「493」	該当なし	管理	マウントポイントの作 成エラー：mkdir から の予期しないエラー： mkdir：ディレクトリ を作成できません： permission denied マ ウントポイントが automount パスの下に あるかどうかを確認し てください	<p>デスティネーションファイル仕様に 自動マウントパスが指定されている 場合、クローン処理が失敗します。</p> <p>対処方法：デスティネーションファ イル仕様 / マウントポイントが自動 マウントパスの下にないことを確認 します。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0009-049」	該当なし	管理	'ストレージシステム上の Snapshot からの リストアに失敗しました :Vserver 上のボリュームの Snapshot コピーからファイルをリストアできませんでした	このエラーは、ボリュームがフルの状態か、ボリュームが自動削除のしきい値を超えた場合に発生します。 対処方法：ボリュームサイズを拡張し、ボリュームのしきい値が自動削除の値よりも小さくなっていないことを確認します。
「0001」 ～「682」	該当なし	管理	'新しい LUN のホスト準備に失敗しました：この機能はサポートされていません	このエラーは、新しい LUN ID の作成に失敗した場合に発生します。 What to do : を使用して作成する LUN の数を増やします lun SnapDrive config prepare luns --count count_value_' コマンドを実行します
「0001」 ～「060」	該当なし	管理	「ディスクグループ情報の取得に失敗しました。 Volume Manager linuxlvm が vgdisplay コマンドを返しました	このエラーは、SnapDrive for UNIX 4.1.1 以降のバージョンが RHEL 5 以降のバージョンで使用されている場合に発生します。 対処方法：SnapDrive バージョンをアップグレードしてから再試行してください。SnapDrive for UNIX 4.1.1 以降のバージョンではサポートが提供されていないためです。RHEL5 以降ではサポート対象外です。
「0009-045」	該当なし	管理	'Failed to create snapshot on storage system: スナップショットによってバックアップされたクローンのため 'スナップショット操作は許可されませんしばらくしてからもう一度お試しください	このエラーは、Single-File Snap Restore (SFSR) 処理の実行中に、そのあとで Snapshot をただちに作成するときに発生します。 What to do : しばらくしてから Snapshot の作成処理を再試行してください。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
「0001」 ～「304」	該当なし	管理	ディスク/ボリュームグループの作成中にエラーが発生しましたボリュームマネージャは次のように失敗しました : metainit : No such file or directory	このエラーは 'Sun Cluster 環境で SnapDrive storage create dg 'hostvol および fs solaris を実行しているときに発生します 操作 : Sun Cluster ソフトウェアをアンインストールしてから ' 操作を再試行します
「0001」 ～「122」	該当なし	管理	'Failed to get snapshot list on filer the specified volume <volname> does not exist.'	このエラーは、SnapDrive for UNIX が、ダミーのエクスポートされたボリュームパスではなく、ボリュームのエクスポートされたアクティブファイルシステムパス（実際のパス）を使用して Snapshot を作成しようとした場合に発生します。 What to do : エクスポートされたアクティブファイルシステムパスを持つボリュームを使用します。
「0001」 ～「476」	該当なし	管理	' デバイスを検出できませんマルチパスを使用している場合は、マルチパス構成にエラーがある可能性があります。設定を確認してから、もう一度やり直してください	このエラーが発生する理由はいくつかあります。 チェックする条件は次のとおりです。ストレージを作成する前に、ゾーニングが適切であることを確認してください。 「napdrive.conf」ファイルの転送プロトコルとマルチパスタイプを調べ、適切な値が設定されていることを確認します。 マルチパスデーモンのステータスを確認します。multipathing-type が nativemio start multipathd に設定されている場合は、snapdrived デーモンを再起動します。
該当なし	該当なし	該当なし	lv. が使用できないため 'FS は再起動後にマウントできません	これは、リブート後に LV を使用できない場合に発生します。そのため、ファイルシステムはマウントされていません。 対処方法 : 再起動後、vgchange を実行して LV を起動し、ファイルシステムをマウントします。

エラーコード	リターンコード	を入力します	メッセージ	解決策
該当なし	該当なし	該当なし	'SDU デーモンへの tatus 呼び出しが失敗しました	<p>このエラーが発生する理由はいくつかあります。このエラーは、処理が完了する前に、特定の処理に関連する SnapDrive for UNIX ジョブが突然失敗した（子デーモンが終了した）ことを示します。</p> <p>ストレージの作成または削除が「Status call to SnapDrive for UNIX daemon failed」というメッセージで失敗した場合は、ONTAP によるボリューム情報の取得に失敗した可能性があります。volume-get-iter zapi が失敗することがあります。しばらくしてから SnapDrive 処理を再試行してください。</p> <p>「multipath.conf」の値が不適切なため、パーティションやその他のオペレーティングシステムコマンドの作成中に「kpartx-l」を実行すると、SnapDrive for UNIX 操作が失敗することがあります。正しい値が設定されており、「multipath.conf」ファイルに重複するキーワードが存在しないことを確認してください。</p> <p>SFSR の実行中、SnapDrive for UNIX は一時的な Snapshot を作成します。Snapshot の最大数に達した場合、この Snapshot は失敗する可能性があります。古い Snapshot コピーを削除して、リストア処理を再試行します。</p>

エラーコード	リターンコード	を入力し ます	メッセージ	解決策
該当なし	該当なし	該当なし	「使用中の AP。フラッシュできません。	<p>このエラーは、ストレージの削除処理または切断処理中にマルチパスデバイスのフラッシュを試行したときに、古くなったデバイスが残っている場合に発生します。</p> <p>What to do : コマンドを実行して、古いデバイスがないかどうかを確認します</p> <p>「* マルチパス*」</p> <pre>--l egre-ifail_と 'flush_on_last_del'が「 multipath.conf」ファイルで'yes'に 設定されていることを確認します。</pre>

• 関連情報 *

"ネットアップの相互運用性"

"『AIX Host Utilities 6.0 Installation and Setup Guide』"

複数の SAN パスが存在するが、マルチパスが無効になっている場合に、SnapDrive storage create コマンドが失敗します

複数の SAN パスが存在するが 'マルチパスが無効になっている場合 'san storage create コマンドは失敗します SnapDrive

たとえば、SVM に iSCSI LIF が 2 つある場合は、次のようになります。

```
[root@scspr0189449001 etc]# iscsiadm --mode session --rescan
Rescanning session [sid: 1, target: iqn.1992-
08.com.netapp:sn.f7335762b23e11e695360050569c153a:vs.3, portal:
10.224.70.253,3260]
Rescanning session [sid: 2, target: iqn.1992-
08.com.netapp:sn.f7335762b23e11e695360050569c153a:vs.3, portal:
10.224.70.254,3260]
```

snapdrive.conf ファイルで「multipath-type」が「none」に設定されていて、マルチパスサービスが無効になっている場合、LVM を使用してストレージの作成を試みたときに、次のエラーが返されます。

```
root@scspr0189449001 etc]# snapdrive storage create -fs /mnt/test -lun
rgvsim:/vol/asmvol/test -lunsize 500m
  LUN rgvsim:/vol/asmvol/test ... created
  mapping new lun(s) ... done
  discovering new lun(s) ... *failed*
  Cleaning up ...
    - LUN rgvsim:/vol/asmvol/test ... deleted
    0001-422 Admin error: LVM initialization of luns failed:
    Device /dev/sdb,/dev/sdc not found (or ignored by filtering).
```

これは 'pvcreate' コマンドでは 'カンマで区切られた両方のデバイスが 'pvcreate/dev/sdb'/dev/sdc' および '/dev/sdb'/dev/sdc' という名前の単一のデバイスとして使用されるためです

ストレージへのパスが複数あり、LVM を使用する必要がある場合は、マルチパスを有効にする必要があります。

ホストシステムにボリュームをアンマウントせずに **SVM** でボリュームを削除した場合、**SnapDrive storage show** コマンドで間違った実際のパスが表示されます

ホストシステムにボリュームをアンマウントせずに SVM でボリュームを削除した場合、および SnapDrive storage show -v コマンドを実行した場合、実際のパスは正しくありません。

また、ボリュームが SVM でジャンクションされていない場合にも同じように表示されます。次の例は、実際のパスが正しくないことを示しています。

```
# snapdrive storage show -fs /mnt /file1 -v
NFS device: vs1:/vol_test1 mount point: /mnt
(non-persistent)
Protocol: NFS Actual Path:
vs1:/vol/roovoll1/vol_test1
```

ホストおよびストレージシステムで **NFSv3** および **NFSv4** のバージョンが有効になっていると、**snap restore** 処理が失敗します

ホストおよびストレージシステムで NFSv3 および NFSv4 のバージョンが有効になっている場合、snap restore 処理が失敗します。

ホストおよびストレージ・システムで NFSv3 および NFSv4 バージョンを有効にしている、-o vers' オプションを指定せずにホストにボリュームをマウントした場合、nobody : ファイルおよびディレクトリに所有権が設定されます。

回避策

NFS ボリュームをマウントするときに '-o vers' オプションを使用するか 'NFS のデフォルト・オプションをホスト上の適切な値にチェックすることをお勧めします

スナップ切断処理でクローンボリュームの削除に失敗する

場合によっては、SnapDrive snap disconnect 操作でクローンボリュームを削除できず、「d OES not look snapdrive -generated」というエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題の回避策は '元の名前に戻し 'napdrive.conf ファイルで 'bypass-snapdrive-clone-generated-check' がオンに設定されていることを確認します

iSCSI が実行されていない場合、SnapDrive for UNIX からエラーが報告されます

Linux ホスト上で実行されている SnapDrive for UNIX は 'HBA assistant not found' というエラーメッセージを返します

これは、次のいずれかの状況が発生した後に発生します。

- iSCSI の停止が発生しました。
- テイクオーバーが発生しましたが、iSCSI サービスはまだ開始されていません。
- ギブバックを実行中です。iSCSI サービスはまだ開始されていません。

SnapDrive for UNIX を実行するには、iSCSI サービスが実行されている必要があります。サービスが停止されると、SnapDrive for UNIX はエラーメッセージを返します。たとえば 'iSCSI サービスが実行されていないときに SnapDrive storage show コマンドを実行すると '次のような出力が表示されます # SnapDrive storage show -dg toaster1 0001-877 Admin error : HBA assistant not foundLUN を含むコマンドは失敗します

回避策

iSCSI サービスが実行されていることを確認します。ストレージシステムでテイクオーバーやギブバックの処理が開始されるまで待ちます。ストレージ・システムが通常の実行モードになっている場合は 'iSCSI サービスを再起動してから 'snapmirror driven restart コマンドを実行して SnapDrive for UNIX デーモンを再起動しますサービスが実行されたら、SnapDrive storage show コマンドを再発行します。今回は、次のような出力が表示されます。

```
# snapdrive storage show -dg toaster1
dg: toaster1 dgtype lvm
hostvol: /dev/mapper/toaster1-lvol1 state: AVAIL
hostvol: /dev/mapper/toaster1-lvol2 state: AVAIL
fs: /dev/mapper/toaster1-lvol1 mount point: /mnt/um1 (nonpersistent)
fstype ext3
fs: /dev/mapper/toaster1-lvol2 mount point: NOT MOUNTED
device filename adapter path size proto state clone lun path backing
snapshot
/dev/sde - P 64m iscsi online No gin:/vol/vol1/Lun1
/dev/sdf - P 64m iscsi online No gin:/vol/vol1/Lun2
```

エラーコードメッセージに不一致があります

FC サービスと iSCSI サービスの両方が稼働しているとき、または停止しているときに SnapDrive storage delete コマンドを実行すると、SnapDrive for UNIX で誤ったエラー・メッセージが表示されます。

* 転送プロトコル *	* 表示されたメッセージ (誤ったメッセージ) *	* 代わりに表示されるメッセージ (正しいメッセージ) *
FC と iSCSI が設定されました	<pre>0002-181 Command error: Could not select appropriate File System. Please check the value of fstype in config file, and ensure proper file system is configured in the system.</pre>	<pre>0002-143 Admin error: linuxiscsi linuxfc ドライバの共存はサポート されていません `1つのドライバだけがホストにロ ードされていることを確認してか ら`再試行します</pre>
FC と iSCSI は設定されていません	<pre>0001-465 Command error: The following filespecs do not exist and cannot be deleted.</pre>	<pre>0001-877 Admin error: HBA アンス タントが見つかりません。LUN を 含むコマンドは失敗します</pre>

コマンドはブロックされたように表示

SnapDrive for UNIX コマンドは 10 分以上ブロックされているように見えるため、実行できません。コマンドが完了するまで待つ必要があります。

この現象は、VxVM/DMP がボリューム設定デーモンの管理に時間が必要な場合に発生することがあります。この動作のトリガーには、次のものがあります。

- パニックから回復したストレージシステム
- オフラインからオンラインに移行したストレージシステムターゲットアダプタ

回避策

コマンドが完了するまで待ちます。Veritas 構成デーモンを実行し、デバイスの現在の状態を検出するには数分かかります。

SnapRestore の実行中にクラスタリングメッセージが表示されます

SnapDrive Any 環境 for UNIX host operating system with host cluster monitoring という一般的なメッセージが表示されます。ホストクラスタの監視機能がない場合やオフになっている場合でも表示されます。

次のメッセージは、snap restore コマンド「#SnapDrive snap restore -vg clustg-mysnap snapname」を実行したときに表示されます

高可用性ホスト・クラスタリング・ソフトウェアを使用しているようですクラスタフェイルオーバーが発生しないようにするには、リストアするリソースのクラスタ監視を無効にしてからリストアしてください。続行しますか?(y/n) : SnapDrive snap restore コマンドによってボリューム・グループが一時的にダウンしたため、問題が発生しますこの時点でクラスタの監視プロセスが実行されている場合、SnapDrive SnapRestore 処理を実行すると、原因 a cluster failover が実行されることがあります。

回避策

HACMP はボリューム・グループおよびアプリケーションのデフォルト・リソース監視を提供しないため、HACMP を実行する AIX ホストでは、この問題は発生しません

HACMP でストレージ監視を行うようにアプリケーションをカスタマイズした場合は、SnapDrive snap restore コマンドを実行する前に、アプリケーションを無効にして監視する必要があります

標準終了ステータス値

SnapDrive for UNIX のエラーメッセージ ID には、終了ステータス値が関連付けられています。終了ステータスの値を使用して、SnapDrive for UNIX コマンドの成功または失敗を判断できます。

エラーメッセージの終了ステータスの値について

SnapDrive for UNIX の各エラーメッセージには、終了ステータスの値が関連付けられています。終了ステータスの値には 'エラーの原因と' タイプ - 警告 ' コマンド ' 管理者 ' 致命的

各 SnapDrive エラーメッセージ ID は、終了ステータス値にリンクされています。終了ステータスの値には次の情報が含まれます。

- 終了ステータス値 — エラー状態の基本原因を示します
- タイプ — エラーのタイプを示します重大度のレベルは、値ではなくメッセージによって異なります。指定可能な値は次のとおりです。
 - 警告 — SnapDrive for UNIX はコマンドを実行しましたが、注意が必要な状態に関する警告が発行されました。
 - コマンド — コマンドラインのエラーにより、SnapDrive for UNIX がコマンドの実行に失敗しました。コマンドラインの形式が正しいことを確認してください。
 - Admin — SnapDrive for UNIX はシステム構成の互換性がないため、コマンドの実行に失敗しました。システム管理者に問い合わせ、設定パラメータを確認してください。
 - fatal — 予期しない状態のため、SnapDrive for UNIX がコマンドの実行に失敗しました。致命的なエラーはまれです。致命的なエラーが発生し、問題を解決できた場合は、ネットアップテクニカルサポートに問い合わせ、正常にリカバリしてエラー状態を修正するために必要な手順を確認してください。

終了ステータス値を使用する

終了ステータスの値は、SnapDrive for UNIX コマンドの成功または失敗を判別するスクリプトで使用されます。

- 値が 0 の場合は、コマンドが正常に完了したことを示します。
- 0 以外の値は、コマンドが完了していないこと、および原因に関する情報とエラー状態の重大度を示します。

スクリプトの例

以下は、終了ステータス値を使用するスクリプトの例です。

次のスクリプトでは、SnapDrive for UNIX の終了ステータス値を使用します。

```

#!/bin/sh
# This script demonstrates a SnapDrive
# script that uses exit codes.

RET=0;
#The above statement initializes RET and sets it to 0

snapdrive snap create -dg vg22 -snapname vg22_snap1;
# The above statement executes the snapdrive command

RET=$?;
#The above statement captures the return code.
#If the operation worked, print
#success message. If the operation failed, print
#failure message and exit.

if [ $RET -eq 0 ]; then
echo "snapshot created successfully"
else
echo "snapshot creation failed, snapdrive exit code was $RET"
exit 1
fi
exit 0;

```

RET = 0 の場合、コマンドは正常に実行され、スクリプトは次のように入力します。

```

# ./tst_script
snap create: snapshot vg22_snap1 contains:
disk group vg22 containing host volumes
lvoll
snap create: created snapshot betty:/vol/vol2:vg22_snap1
snapshot created successfully

```

RET = 0 以外の値の場合、コマンドは正常に実行されませんでした。次の例は、一般的な出力を示しています。

```

# ./tst_script
0001-185 Command error: snapshot betty:/vol/vol2:vg22_snap1 already
exists on betty:/vol/vol2.
Please use -f (force) flag to overwrite existing snapshot
snapshot creation failed, snapdrive exit code was 4

```

終了ステータスの値

各終了ステータス値には、エラー名と、それに関連付けられたタイプがあります。テーブルを表示して、終了ステータス値、エラー名、タイプ、および概要について確認します。

次の表に、終了ステータスの値を示します。終了ステータスの値には、順番に番号が付けられます。SnapDrive for UNIX が現在エラーを実装していない場合、この終了ステータスの値はテーブルに含まれません。その結果、数値にギャップが生じる場合があります。

終了値	エラー名	を入力します	説明
1.	サポート対象外	コマンドエラー	このバージョンの SnapDrive for UNIX ではサポートされていない関数が呼び出されました。
2.	メモリがありません	致命的	システムのメモリが不足しています。SnapDrive for UNIX は、十分なメモリを解放しないと動作しません。実行中の他のアプリケーションを調べて、過剰なメモリを消費していないことを確認します。
3.	無効なコマンドです	コマンドエラー	無効なコマンドを発行しました。これは、入力したコマンドのテキストに構文エラーがある可能性があります。
4.	はすでに存在します	コマンドエラー	すでに存在するものを作成するよう要求しました。通常、このエラーは、Snapshot コピーの名前を指します。この名前は、Snapshot コピーを作成するストレージシステムボリュームには存在しない名前にする必要があります。

終了値	エラー名	を入力します	説明
5.	スレッドの作成に失敗しました	管理エラー	SnapDrive for UNIX はプロセススレッドを作成できませんでした。システムで実行されている他のプロセスを調べて、十分なスレッドリソースが使用可能であることを確認します。
6.	が見つかりません	コマンドエラー	SnapDrive for UNIX のコマンドラインに、ファイル、データグループ、ホストボリューム、ファイルシステム、またはその他の引数が存在しない場合は、それらを入力します。
7.	マウントされたファイルシステムではありません	コマンドエラー	アクセスするファイルシステムが有効なファイルシステムでないか、マウントされていません。
9.	ボリュームマネージャのエラーです	コマンドエラー	ボリュームマネージャへのアクセス時にエラーが返されました。エラーの詳細およびその理由については、特定のエラーメッセージを参照してください。
10.	名前が無効です	コマンドエラー	<p>コマンドラインに、正しくフォーマットされていない名前を入力しました。</p> <p>たとえば、ストレージ・システム・ボリュームが「filer : /vol/vol_name」として指定されていません。また、ストレージシステムまたはボリュームマネージャベースの名前に無効な文字が含まれている場合にも表示されます。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
11.	デバイスが見つかりません	管理エラー	<p>SnapDrive for UNIX は、Snapshot コピーを作成するディスクグループ内の LUN にはアクセスできません。</p> <p>ホストとストレージ・システムの両方で、すべての LUN のステータスを確認します。また、ストレージ・システム・ボリュームがオンラインであること、およびストレージ・システムが稼働していることを確認します。</p>
12.	ビジーです	コマンドエラー	<p>LUN デバイス、ファイル、ディレクトリ、ディスクグループ、ホストボリューム、または他のエンティティがビジーです。</p> <p>これは、通常はコマンドを再試行するときに発生する致命的でないエラーです。リソースまたはプロセスがハングし、SnapDrive for UNIX でオブジェクトがビジー状態になって使用できなくなっていることを示す場合があります。</p> <p>また、I/O トラフィックの負荷が高くなりすぎて Snapshot コピーを正常に作成できないときに、Snapshot コピーを作成しようとしている可能性もあります。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
13	初期化できません	致命的	<p>SnapDrive for UNIX は、必要なサードパーティの資料を初期化できませんでした。これは、ファイルシステム、ボリュームマネージャ、ホストクラスタソフトウェア、マルチパスソフトウェアなどです。</p>
14	SnapDrive がビジーです	SnapDrive がビジーです	<p>別のユーザまたはプロセスが、SnapDrive で処理を実行するように要求したのと同じホストまたはストレージシステム上で処理を実行しています。処理を再試行してください。</p> <p>このメッセージは、他のプロセスがハングしたことを意味し、強制終了する必要がある場合があります。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>状況によっては、Snapshot のリストア処理に時間がかかることがあります。ハングしたと思われるプロセスが、Snapshot のリストア処理が完了するのを待機しているだけではないことを確認します。</p> </div>

終了値	エラー名	を入力します	説明
15	構成ファイルのエラーです	致命的	snapdrive.conf ファイルのエントリが無効、不適切、または整合性がない。詳細については、該当するエラーメッセージを参照してください。SnapDrive for UNIX を続行するには、このファイルを修正する必要があります。
17	権限が無効です	コマンドエラー	このコマンドを実行する権限がありません。SnapDrive for UNIX を実行するには、root としてログインする必要があります。
18	ストレージシステムがありません	管理エラー	SnapDrive for UNIX は、このコマンドに必要なストレージシステムにアクセスできません。エラーメッセージに示されたストレージシステムへの接続を確認してください。
19	ファイラーログインが正しくありません	管理エラー	指定したログイン情報を使用して SnapDrive for UNIX からストレージシステムにログインすることはできません。
20	ライセンスが無効です	管理エラー	このストレージシステム上で実行するには、サービス SnapDrive for UNIX のライセンスが必要です。

終了値	エラー名	を入力します	説明
22	fs をフリーズできません	管理エラー	SnapDrive for UNIX で、Snapshot コピーを作成するために指定されたファイルシステムをフリーズできなかったため、Snapshot の作成処理に失敗しました。ファイルシステムをフリーズするのに十分な I/O トラフィックが少ないことを確認してから、コマンドを再試行してください。
27	整合性のない Snapshot コピーです	管理エラー	<p>ディスクグループのイメージに整合性がない Snapshot コピーからのリストアが要求されたため、Snapshot のリストア処理に失敗しました。整合性のない画像は、次の場合に発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SnapDrive for UNIX を使用して Snapshot コピーを作成していない。 • Snapshot 作成処理は、整合性のあるビットが設定される前に中断されたため、（重大なシステム障害の場合のように）クリーンアップできませんでした。 • 作成後に Snapshot コピーで何らかのデータの問題が発生しました。
28	HBA 障害です	管理エラー	SnapDrive for UNIX で、HBA から情報を取得しようとしてエラーが発生しました。

終了値	エラー名	をを入力します	説明
29	メタデータが無効です	管理エラー	SnapDrive for UNIX で、Snapshot コピーの作成時に書き込んだ Snapshot コピーメタデータにエラーが発生しました。
30	Snapshot コピーのメタデータがありません	管理エラー	メタデータに要求されたディスクグループが一部含まれていないため、SnapDrive for UNIX では Snapshot リストア処理を実行できません。
31.	パスワードファイルが正しくありません	管理エラー	パスワードファイルのエントリが正しくありません。このストレージ・システムのログイン・エントリを削除するには、SnapDrive config delete コマンドを使用します。次に、SnapDrive config set_user_name_` コマンドを使用して、ログイン情報を再入力します。
33	パスワードファイルのエントリがありません	管理エラー	パスワードファイルにこのストレージシステム用のエントリがありません。SnapDrive for UNIX を実行する必要があるすべてのストレージ・システムに対して、SnapDrive config set_username filename_` コマンドを実行します。その後、もう一度この処理を実行してください。
34	NetAPPLUN ではありません	管理エラー	SnapDrive for UNIX コマンドで、ネットアップストレージシステムにない LUN が検出されました。
35	ユーザは中止されました	管理エラー	処理の確認を求めるプロンプトが表示され、処理を実行する必要がないことを確認できます。

終了値	エラー名	を入力します	説明
36	I/O ストリームエラー	管理エラー	<p>システム入カルーチンまたはシステム出カルーチンが、SnapDrive for UNIX が認識しなかったエラーを返しました。</p> <p>snapdrive .dc を実行し、その情報をネットアップテクニカルサポートに送信して、リカバリを完了するために実行する手順を決定します。</p>
37	ファイルシステムがいっぱいです	管理エラー	<p>ファイルシステムに十分なスペースがないため、ファイルの書き込みが失敗しました。適切なファイルシステムに十分なスペースが解放されていれば、SnapDrive for UNIX の処理を続行できます。</p>
38	ファイルエラー	管理エラー	<p>SnapDrive for UNIX がシステム構成ファイルまたは一時ファイルの読み取りまたは書き込みを行っているときに、I/O エラーが発生しました。</p>
39	重複するディスクグループです	コマンドエラー	<p>SnapDrive for UNIX でディスクグループをアクティブ化しようとする、重複するマイナーノード番号が取得されました。</p>
40	ファイルシステムの解凍に失敗しました。	管理エラー	<p>ファイルシステム上のシステムアクティビティにより、snap create コマンドが失敗しました。通常この問題は、SnapDrive for UNIX ファイルシステムがフリーズしたときに、Snapshot コピーの作成に必要となり、Snapshot コピーが完了する前にタイムアウトになります。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
43	この名前はすでに使用されています	コマンドエラー	SnapDrive for UNIX は、ディスクグループ、ホストボリューム、ファイルシステム、または LUN の作成を試みましたが、すでに名前が使用されています。修正するには、使用していない名前を選択し、SnapDrive for UNIX コマンドを再入力します。
44	ファイルシステムマネージャのエラーです	致命的	<p>SnapDrive for UNIX で、次の場合にファイルシステムから予期しないエラーが発生しました：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイルシステムを作成しようとしています • ファイルシステムのマウントテーブルにエントリを作成し、ブート時にファイルシステムを自動的にマウントします。 <p>このコードと共に表示されるエラーメッセージのテキストは、ファイルシステムで発生したエラーを示しています。リカバリを完了するための手順を判断できるように、メッセージを記録してネットアップテクニカルサポートに送信します。</p>
45	マウントポイントエラー	管理エラー	ファイルシステムマウントポイントがシステムマウントテーブルファイルに表示されました。修正するには、使用中でないマウントポイントまたはマウントテーブルに含まれているマウントポイントを選択し、SnapDrive for UNIX コマンドを再入力します。

終了値	エラー名	を入力します	説明
46	LUN が見つかりません	コマンドエラー	<p>SnapDrive for UNIX コマンドが、ストレージ・システム上に存在しなかった LUN にアクセスしようとしていました。</p> <p>正しく設定するには、LUN が存在すること、および LUN 名が正しく入力されていることを確認します。</p>
47	イニシエータグループが見つかりません	管理エラー	<p>ストレージシステムのイニシエータグループに想定どおりアクセスできませんでした。そのため、SnapDrive for UNIX では現在の処理を完了できません。</p> <p>具体的なエラーメッセージには、問題の内容と解決に必要な手順が記載されています。問題を修正してからコマンドをもう一度実行してください。</p>
48	オブジェクトはオフラインです	管理エラー	<p>SnapDrive for UNIX は、オブジェクト（ボリュームなど）へのアクセスを試みましたが、オブジェクトがオフラインであるために失敗しました。</p>
49	競合するエンティティ	コマンドエラー	<p>SnapDrive for UNIX で igroup の作成が試行されましたが、同じ名前の igroup が見つかりました。</p>
50	クリーンアップエラーです	致命的	<p>SnapDrive for UNIX で、削除する必要がある項目が検出されましたが、まだ存在しています。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
51	ディスクグループ ID が競合しています	コマンドエラー	<p>SnapDrive snap connect コマンドは '既存のディスク・グループと競合するディスク・グループ ID を要求しました</p> <p>これは通常、元のホスト上の SnapDrive snap connect コマンドが、それをサポートしていないシステム上で試行されることを意味します。この問題を解決するには、別のホストから処理を実行してください。</p>
52	LUN がどのホストにもマッピングされていません	管理エラー	<p>LUN はどのホストにもマッピングされていません。つまり、このボリュームはストレージシステムのイニシエータグループに属していません。アクセスできるようにするには、SnapDrive for UNIX の外部にある現在のホストに LUN をマッピングする必要があります。</p>
53	LUN がローカルホストにマッピングされていません	管理エラー	<p>LUN は現在のホストにマッピングされていません。つまり、現在のホストのイニシエータを含むストレージシステムのイニシエータグループには属しません。アクセスできるようにするには、SnapDrive for UNIX の外部にある現在のホストに LUN をマッピングする必要があります。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
54	LUN は外部 igroup を使用してマッピングされています	管理エラー	<p>LUN は外部ストレージシステムのイニシエータグループを使用してマッピングされます。つまり、ローカルホスト上にないイニシエータのみを含むストレージシステム igroup に属していることとなります。</p> <p>そのため、SnapDrive for UNIX では LUN を削除できません。</p> <p>SnapDrive for UNIX を使用して LUN を削除するには、その LUN がローカル igroup、つまりローカルホストで検出されたイニシエータのみを含む igroup にのみ属している必要があります。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
55	LUN は、混在 igroup を使用してマッピングされません	管理エラー	<p>LUN は、混在ストレージシステムのイニシエータグループを使用してマッピングされます。つまり、ローカルホストで検出された両方のイニシエータを含むストレージシステム igroup に属しているため、イニシエータが見つかりません。</p> <p>このため、SnapDrive for UNIX では LUN を切断できません。</p> <p>SnapDrive for UNIX を使用して LUN を切断するには、その LUN がローカル igroup または外部 igroup にのみ属している必要があります。（ローカル igroup には、ローカルホストで検出されたイニシエータのみが含まれています。外部 igroup には、ローカルホストで検出されなかったイニシエータが含まれています）</p>
56	Snapshot コピーのリストアに失敗しました	管理エラー	<p>SnapDrive for UNIX は、Snapshot リストア処理を試行しましたが、Snapshot コピーに LUN が含まれていない状態で失敗しました。</p> <p>具体的なエラーメッセージには、問題の内容と解決に必要な手順が記載されています。問題を修正してからコマンドをもう一度実行してください。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
58	ホストのリポートが必要です	管理エラー	<p>内部データを更新するには、ホストオペレーティングシステムをリポートする必要があります。SnapDrive for UNIX では、この更新のためにホストが準備されていますが、現在の処理を完了できません。</p> <p>ホストをリポートしてから、このメッセージが表示されるようにする SnapDrive for UNIX コマンドラインを再入力してください。リポートが完了すると、処理を完了できるようになります。</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
59	ホスト、LUN の準備が必要です	管理エラー	<p>現在の処理を完了するには、ホストオペレーティングシステムで内部データを更新する必要があります。この更新は、新しい LUN を作成できるようにするために必要です。</p> <p>SnapDrive for UNIX は 'プロビジョニングの自動ホスト準備が無効になっているため' 更新を実行できませんこれは 'napdrive.conf 変数 <i>enable-implicit-host-preparation</i>' がオフに設定されているためですホストの自動準備を無効 SnapDrive にした状態で、 <code>lun config prepare luns</code> コマンドを使用してホストで LUN をプロビジョニングする準備を行うか、または手動で準備手順を実行する必要があります。</p> <p>このエラー・メッセージが表示されないようにするには 'napdrive.conf' ファイルで '<i>enable-implicit-host-preparation</i>' の値を "on" に設定します</p>

終了値	エラー名	を入力します	説明
62	空ではありません	コマンドエラー	SnapDrive for UNIX がストレージ・システム・ボリュームまたはディレクトリを削除できなかったため、エラーが発生しました。この問題は、別のユーザまたはプロセスが、SnapDrive が削除しようとするファイルをまったく同じ時刻と同じディレクトリに作成した場合に発生することがあります。このエラーを回避するには、一度にストレージ・システム・ボリュームを使用するユーザが 1 人だけであることを確認してください。
63	タイムアウトが切れました	コマンドエラー	SnapDrive for UNIX が 50 分以内に LUN をリストアできなかったため、エラーが発生しました。 リカバリを完了するための手順を判断できるように、メッセージを記録してネットアップテクニカルサポートに送信します。
64	サービスが実行されていません	管理エラー	NFS エンティティを指定した SnapDrive for UNIX コマンドで、ストレージシステムが NFS サービスを実行していないため、エラーが発生しました。
126	不明なエラーです	管理エラー	重大な不明なエラーが発生しました。「napdrive.dc」ユーティリティを実行し、その結果を分析のためにネットアップのテクニカルサポートに送信します。

終了値	エラー名	を入力します	説明
127	内部エラー	致命的	SnapDrive for UNIX の内部エラーが発生しました。「napdrive.dc」を実行し、その結果を分析のためにネットアップのテクニカルサポートに送信します。

ボリュームベースの SnapRestore チェックが失敗する

ボリューム・ベースの SnapRestore (Vbsr) チェックが失敗します (NFS が外部ホストを持たないリストをエクスポートしようとした場合) このクライアント・マシン (SLES11) で /etc/hosts ファイル内のホスト名に対して 2 つの異なる IP が設定されています

この問題を解決するには /etc/hosts ファイルにホスト名の IP を 1 つだけ含める必要があります

Snapshot の作成処理と削除処理が失敗する

LUN がビジー状態のため、Snapshot の作成処理と削除処理でストレージシステム上の Snapshot コピーを削除できません。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
0001-124 Admin error: Failed to remove snapshot <snap-name> on
filer <filer-name>: LUN clone
```

このエラーが発生し、次の条件に該当する場合は Snapshot コピーを直接削除できない可能性があります。

- ディスクグループは複数のストレージシステムにまたがります。
- 次の SnapDrive コマンドは、50 回以上ループで実行されます (繰り返しの回数はホストオペレーティングシステムによって異なります)。
 - SnapDrive storage create
 - SnapDrive snap create
 - SnapDrive storage delete
 - SnapDrive スナップ・リストア
 - SnapDrive スナップ接続
 - SnapDrive storage delete
 - SnapDrive snap delete

この時点で、ストレージ・システム上の Snapshot コピーのステータスは「*LUNs-bBusy *」と表示され、このステータスは数時間延長されます。

回避策

* if... *	* 次に ... *
Snapshot コピー内のクローン LUN のうち、ホストに接続されていないものがあります。	Snapshot コピーを削除するには、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none">• 「filer split clone」コマンドを使用して、クローン LUN をストレージ・システムからスプリットします。• クローン LUN を削除します。
Snapshot コピー内のクローン LUN のうち、ホストに接続されていないものがあります。	次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none">1. lun snap disconnect コマンドを使用 SnapDrive して、クローニングされた LUN をホストから切断します。2. クローン LUN を削除します。3. Snapshot コピーを削除します。

* if...*	* 次に ... *
<p>次のいずれかがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他の Snapshot コピーにも存在する、Snapshot コピー内のクローン LUN • クローン LUN をバックアップします 	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレージ・システムのコマンド・プロンプトで、「<code>lun snap usage -s <volumename> <snap-name></code>」コマンドを実行します <p>次の例に示すように、クローニングされた LUN の Snapshot コピーが含まれている Snapshot コピーの名前が表示されます。</p> <pre data-bbox="867 506 1487 926"> tonic*> lun snap usage vol1 james_lun (filer view) mpiotest2: LUN: /vol/vol1/.snapshot/mpiotest2/d hilip_0 Backed By: /vol/vol1/.snapshot/dhilip_lun/ james </pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. 次の例に示すように、<code>lun snap usage</code> コマンドの出力と同じ順序で、ストレージシステムから Snapshot コピーを削除します。 <pre data-bbox="867 1100 1211 1129">'snap delete vol1 mpiotest2'</pre> <div data-bbox="894 1163 1463 1325" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>削除する Snapshot コピーが他のホストで使用されていないことを確認します。アクセス中の場合は削除できません。</p> </div>
<p>クローン LUN がありません</p>	<p>ストレージ・システム上の Snapshot コピーの [LUNs - Busy (LUN - ビジー)] ステータスが消えるまで待ちます</p>

Snapshot コピーを作成できません

SnapDrive `snap create` コマンドのスナップショット・コピー作成機能に影響する条件は 'いくつかあります'

- SnapDrive `snap create` コマンドは '次のタスクを実行できる必要があります'
 - すべてのディスクグループを照会して LUN のリストを表示します。
 - SCSI コマンドを使用してすべての LUN を照会

- Snapshot コピーを作成する前に、ディスクグループ内の LUN がオンラインであり、ディスクグループにマッピングされている必要があります。オフラインまたはマッピング解除された LUN があると作成処理は失敗します。

Snapshot コピーを作成する前に、すべての LUN がオンラインで、ホストにマッピングされていることを確認してください。

- アクセス権限では、ホストがそのストレージシステム上の情報の Snapshot コピーを作成することはできません。

また、LVM のエントリでも機能するため、LVM のエントリを操作するための十分な権限を持つホストにログオンする必要があります。

Snapshot コピーをリストアできません

SnapDrive snap restore コマンドの Snapshot コピーのリストア機能に影響する条件は、ごくわずかです。

- SnapDrive snap restore コマンドは ' 次のタスクを実行できる必要があります
 - すべてのディスクグループを照会して LUN のリストを表示します。
 - SCSI コマンドを使用してすべての LUN を照会SnapDrive snap restore コマンドを正常に実行するために ' ホスト・ボリュームとファイル・システムを使用可能にしてマウントする必要はありません
- アクセス権限で、ホストがそのストレージシステム上の情報の Snapshot コピーを作成およびリストアできるようにする必要があります。
- マウントできるように、NFS マウントディレクトリをホストに正しくエクスポートする必要があります。



ディスクグループに対して LUN を追加または削除した場合は、必ず別の Snapshot コピーを作成してください。

- Snapshot コピーの作成後にホストボリュームまたはファイルシステムをディスクグループに追加し、その Snapshot コピーをリストアしようとする、エラーメッセージが表示されます。このような状況でリストア処理を正常に実行するには ' コマンド・ラインに force オプション (-f) を含める必要があります



Snapshot コピーの作成およびリストア時に、追加したホストボリュームとファイルシステムにはアクセスできなくなります。

- ホストボリュームまたはファイルシステムの名前を変更したり、Snapshot コピーを作成したあとでマウントポイントを変更したりすると、リストア処理が失敗します。このような状況でリストア処理を正常に実行するには ' コマンド・ラインに force オプション (-f) を含める必要があります



上書きしないように意図した内容を誤って上書きしないようにするには、細心の注意を払って「-f」オプションを使用してください。

- Snapshot コピーの作成後に LUN の名前を変更した場合に、その Snapshot コピーをリストアしようすると、リストア処理は失敗します。LUN の名前を変更したら、新しい Snapshot コピーを作成する必要があります。



Snapshot のリストア処理を開始したら、停止しないでください。この処理を停止すると、システムが不整合な状態のままになる可能性があります。その場合は、手動によるリカバリが必要になることがあります。

ホストがストレージシステムと通信できない場合、デーモンを再起動できません

ホストが設定されたどのストレージシステムとも通信できない場合、デーモンを開始できません。

この状況でデーモンを再起動しようとする、デーモンは開始されず、次のエラーメッセージが表示されません。

```
Unable to start daemon...check daemon log file for more details
```

主に、ストレージシステムに対して ping コマンドを実行して、ホストがストレージシステムと通信しているかどうかを確認する必要があります。それでもホストがストレージシステムと通信できない場合は、次のオプションを使用します。

- ホストと通信していないストレージシステムを削除してから、デーモンを再起動してください。
- その場合、ホストに設定されているストレージ・システムを削除しないで、「napdrive.conf」ファイルのオプション「*autosupport-enabled*」を「*_off*」に無効にして、エラー・メッセージが表示されないようにします。

(AIX) MPIO cfmode のサポートには制限があります

FC IBM AIX Host Utilities の MPIO 環境のサポートには、cfmode が制限されています。Data ONTAP 7.1.x を実行している場合は、single_image または cfmode のみがサポートされます。Data ONTAP 7.2.4 以降では、single_image cfmode と partner cfmode の両方がサポートされます。

デーモンを開始できません

SnapDrive プロセスで古いエントリがいくつか検出された場合、デーモンを開始できません。

デーモンが開始または再起動されると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Starting snapdrive daemon: snapdrive daemon port 4094 is in use ...
Unable to start daemon...check daemon log file for more details
```

デーモンの再起動 / 起動処理中に、スター化された SnapDrive プロセスのエントリを検出すると、デーモンが失敗します。

この問題の回避策では、次のコマンドを実行します。

- SnapDrive プロセスの古いエントリを手動で削除します。
- ホストで使用可能な空きポートを探します。次に 'napdrive.conf' ファイルで 'contact-http-port -sdu -daemon' オプションでポートを指定します

AIX 原因でのゴーストデバイスハンドルの iSCSI コマンドでのリターン時間が長くなる

ゴーストデバイスハンドルの (定義された状態または障害状態のデバイスハンドルの) ある iSCSI または FC を使用して AIX デバイスを照会すると、原因 SCSI コマンドで AIX のデフォルトタイムアウトが約 30 秒待機することができます。

FC の子デバイスハンドルのクリーンアップされていないか、FC HBA がスイッチに接続されていない場合、AIX システムを FC から iSCSI に切り替えたあとにこの問題が表示されます。

- 回避策： *
- ファイバチャネル HBA がスイッチに接続されていない場合は、ファイバチャネルスイッチに接続されていないすべてのファイバチャネルイニシエータにファイバチャネル IOA ラッププラグを取り付けます。
- ファイバ・チャネル HBA がスイッチに接続されているが '子デバイスとして Failed または Defined device handles' がある場合は 'rmdev' コマンドを使用して古いゴースト・デバイス・ハンドルを削除します

snapdrived start コマンドが失敗しました

一部の条件では 'napdrived start' コマンドが失敗することがありますこの問題を解決するには、いくつかのトラブルシューティング手順を実行します。

- 「napdrive.conf」ファイルで指定されたデーモンポートが、他のアプリケーションですでに使用されているかどうかを確認します。
- 以前のデーモンインスタンスが正常に停止しているかどうかを確認します。
- システム全体のセマフォの上限に達しているかどうかを確認します。この場合、デーモンが開始されません。
- マシン上で iSCSI、VxVM などのサービスが実行されていないかどうかを確認します。
- HTTPS が「オン」に設定されている場合は、自己署名証明書が指定されたディレクトリにインストールされているかどうかを確認します。

SnapDrive コマンドを使用すると、ファイルシステムのマウントやアンマウント、およびシステムファイルの変更が行われる場合があります

特定の SnapDrive for UNIX コマンドを使用すると、原因ファイルシステムをマウントまたはアンマウントできます。コマンドを実行してファイルシステムをマウントする処理を実行すると、SnapDrive for UNIX によって、ホストプラットフォームの標準システムファイルにファイルシステムの名前が追加されます。処理によってファイルシステムがアンマウントされた場合、SnapDrive for UNIX はシステムファイルからその名前を削除します。これは問題にならないはずですが、システムファイルがいつ変更されるかを知ると便利です。

システムファイルの名前は、ホストプラットフォームによって異なります。次の表に、ホストプラットフォームとそのシステムファイルを示します。

* ホスト *	* システムファイル *
AIX の場合	「/etc/filesystems」のように入力します

次のいずれかのコマンドでファイルシステムをマウントできます。

- SnapDrive スナップ・リストア
- SnapDrive スナップ接続
- SnapDrive storage create
- SnapDrive ホスト接続
- SnapDrive ストレージ接続

次のコマンドは、ファイルシステムをアンマウントできる処理を実行します。

- SnapDrive スナップ・リストア
- SnapDrive スナップ切断
- SnapDrive ストレージ切断
- SnapDrive storage delete
- SnapDrive ホスト切断

ストレージスタックを選択できません

「snapdrive.conf」ファイルに指定されている値が適切でないため、ストレージスタックを選択できません。

次の警告メッセージが表示されます。

```
WARNING!!! Unable to find a SAN storage stack. Please verify that the
appropriate transport protocol, volume manager, file system and
multipathing type are installed and configured in the system. If NFS is
being used, this warning message can be ignored.
```

- NFS 環境を使用している場合は、警告メッセージを無視して、ホストシステムで引き続き SnapDrive 処理を使用します。
- SAN 環境を使用している場合は、AIX マトリックススタックに記載されている「napdrive.conf」ファイルに適切な値が指定されていることを確認してください。次に、デーモンを再起動します。
- 関連情報 *

スタックの要件

snapdrived stop コマンドまたは snapdrived start コマンドを実行するとハングします

場合によっては、「コマンドを使用しないで停止」または「コマンドを使用しないでください」がハングすることがあります。

この問題を解決するには、「コマンド実行中」の数と、コマンドの実行開始時刻を確認するために「コマンドの未完了」ステータスを実行します。'napdrived stop' コマンドは、実行中のすべてのコマンドが完了するまで待機します。コマンドがハングすると思われる場合は、問題の「napdrived-force stop」または「管理された-force restart」コマンドを使用します。



「-force」オプションを使用すると、実行中のすべてのコマンドとデーモンが停止します。これにより、古いデバイスのエントリや今後のデーモンの開始など、システムの状態に影響が及ぶ可能性があります。

SnapDrive for UNIX コマンドを実行しても、アクセスエラーを確認できませんでした

SnapDrive for UNIX で、ストレージオブジェクトに対する適切な書き込みアクセスが許可されていないと、エラーが表示されることがあります。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
0002-332 Admin error: Could not check SD.Storage.Write access on LUN
storage_array1:/vol/vol1/lun1for user unix-host\root
on Operations Manager server(s) ops-mngr-server1 reason: Invalid resource
specified. Unable to find its Id on Operations Manager server ops-mngr-
server1
```

この問題の解決策は次のようになります。

1. Operations Manager でストレージリソースが更新されたことを確認します。Operations Manager でストレージリソースが更新されない場合
 - 「`d fm host discover <storage-system>`」を手動で実行します。
 - 'd-admin に { グローバル 'dfd.Database.Write} 機能を割り当てます

この場合、SnapDrive for UNIX は Operations Manager を自動的に更新し、再度アクセスチェックを実行します。

SnapDrive for UNIX で使用されるデフォルトの更新間隔は 15 秒 (`dfM-rbac -retry-sleep-ssec`) であり、SnapDrive for UNIX で使用されるデフォルトの再試行回数は 12 (`_dfM-rbac -retries_`) です。上記のエラー・メッセージが表示される場合は '環境に合わせて' `_dfM-rbac -retries` 設定変数の値を '14'16'18' などに増やしてください。Operations Manager の更新間隔は、ストレージシステムに搭載されている LUN とボリュームの数によって異なります。

NFS 環境で FlexVol ボリュームのマウントが失敗する

FlexVol ボリュームをマウントすると `/etc/exports` ファイルにエントリが追加されます。NFS 環境では、SnapDrive for UNIX が失敗し、エラー・メッセージが生成されます。

エラーメッセージはです

```
0001-034 Command error: mount failed: nfs mount:
dub12137:/vol/vn_dub12137_testprisredo_0: Permission denied.
```

SnapDrive for UNIX では 'オプション `nfs.export.auto-update`' が off に設定されているため 'エラーメッセージが表示されることがあります。オプション `nfs.export.auto-update`' は `/etc/exports` ファイルで自動更新を実行するかどうかを制御します。



NFS 環境で FlexVol ボリュームに障害が発生した場合、AutoSupport はストレージシステムにメッセージを送信しません。

手順

1. 「`/etc/exports`」ファイルが自動的に更新されるように、「`nfs.export.auto-update`」オプションを「on」に設定します。

これで、SnapDrive for UNIX が FlexVol ボリュームをマウントできるようになります。

HA ペアアクティブ / アクティブ構成では、両方のストレージシステムで NFS エクスポートオプションを on に設定します。

SnapDrive for UNIX は、ドル記号を正しく解釈しません

SnapDrive for UNIX では、設定値の一部として特殊文字が指定されている場合、ドル記号 (\$) とすべての特殊文字が正しく解釈されません。

指定する設定値はすべて数値である必要があります。構成値に \$ またはその他の特殊文字を指定すると、

SnapDrive for UNIX はその値を受け入れますが、特殊文字のあとに記載された数値を別の方法で解釈します。

例

次に、\$ の解釈例を示します。

```
#a=$123
#echo $a
23

[root@vm-linux-51-233 ~]# /opt/NetApp/snapdrive/bin/config_set volume-clone-retry-sleep=$129
[root@vm-linux-51-233 ~]# /opt/NetApp/snapdrive/bin/config_show |grep volume-clone-retry-sleep
volume-clone-retry-sleep:Number of seconds between retries during flex-clone create:'3':'29':1:0:'^[0-9]+$':filer
```

この例では、SnapDrive for UNIX は構成値（\$123）を 23 と解釈します。

回避策

\$ の前にバックスラッシュ（\）を指定してください。前の例を次のように変更します。

```
#a=\$123
#echo $a
23

[root@vm-linux-51-233 ~]# /opt/NetApp/snapdrive/bin/config_set volume-clone-retry-sleep=$129
[root@vm-linux-51-233 ~]# /opt/NetApp/snapdrive/bin/config_show |grep volume-clone-retry-sleep
volume-clone-retry-sleep:Number of seconds between retries during flex-clone create:'3':'29':1:0:'^[0-9]+$':filer
```

マッピングされた一部のデバイスの検出中に **SnapDrive for UNIX storage create** コマンドが失敗する

SnapDrive for UNIX で「storage create」コマンドを実行すると、検出段階で、マッピングされた一部のデバイスの検出が拒否され、コマンドが失敗します。

回避策

すべてのデバイスを受け入れるには、/etc/lvm/lvm.conf ファイルの filter セクションを編集します。

```
filter = [ "a/.*/" ]
```

• 関連情報 *

[ストレージ作成処理のガイドラインを次に示します](#)

カスタマイズした **LD_LIBRARY_PATH** で **SnapDrive for UNIX** コマンドが失敗する

カスタマイズされた「LD_LIBRARY_PATH」があり、「napcreate -check-eason_nfs」が off に設定されている場合、SnapDrive for UNIX コマンドは失敗します。

回避策

ラッパー・スクリプト内の「env」変数を設定して、変数が SnapDrive バイナリに対してのみ表示されるようにします。

複数サブネット構成で **SnapDrive** 処理が失敗する

インターネット制御メッセージプロトコル（ICMP）アクセスが無効になっているか、ホストとストレージシステムのネットワーク間で ICMP パケットが破棄されていると、複数のサブネット構成で SnapDrive 処理が失敗します。

回避策

`enable-ping-to-check-fer-reachability` が 'off' に設定されていることを確認します

環境変数がコマンドシェルで設定されていると、**SnapDrive for UNIX** コマンドが失敗します

UNIX コマンドの SnapDrive は実行できませんこれは 'コマンド・シェルで設定された環境変数が SnapDrive for UNIX では受け入れられず '\$LD_LIBRARY_PATH' および `snapcreate -check-ers' ノンパーシステント NFS' パラメータが off' に設定されているためです

回避策

SnapDrive for UNIX バイナリのラッパースクリプトを使用して、バイナリで表示される環境変数を設定します。

SnapDrive for UNIX のパッチを AIX にデフォルトでインストールすることはできません

System Management Interface Tool (SMIT) を使用して、AIX に SnapDrive for UNIX パッチ・リリースをデフォルトでインストールすることはできません。

回避策

SnapDrive for UNIX パッチ・リリース for AIX をインストールする場合は 'SMIT で [overwrite] オプションを選択してください

SnapDrive for UNIX では、UNIX の古いデバイスは自動的に削除されません

SnapDrive for UNIX の処理が設定の問題で失敗した場合、Fibre Channel over Ethernet (FCoE) 環境で古いデバイスが使用されることがあります。これらの古いデバイスは自動的に削除されないため、回避策を把握しておく必要があります。

回避策

ベンダーが提供するネイティブの再スキャンスクリプトを実行して古いエントリをすべて削除するか、「re-scan-scsibus.sh --r」コマンドを使用して再スキャンスクリプトを実行します。これは、「G3」パッケージに含まれています。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。